

新作百人一首替え歌 その1(1-9)

青野正宏

1 秋の田の 町のスーパー くまあらし わがふるさとは 危機になりつつ  
秋の田の かりほのいほの とまをあらみ わが衣手 (ころもで) は 露にぬれつつ  
秋田県は大変だ 町のスーパーまで熊が荒らしている

2 秋過ぎて 冬来にけらし 白銀の 雪を欲する あめのスキー場  
春過ぎて 夏来にけらし 白妙の ころもほすてふ 天の香具山  
地球温暖化だからなあ 尤も令和7年に関してはあてはまらない

3 悪し友と 徹夜マージャン 負けばかり ながながし夜を ひとりカモなる  
あし引の山鳥の尾のしだりをの ながながし夜をひとりかもねむ  
また 負けてしまった カモにされるばかりだ

4 田子の浦 うち出てみれば 夏山の 富士の高嶺に 人は群れつつ  
田子の浦うち出てみれば白妙の ふじのたかねに雪はふりつつ  
田子の浦からでは肉眼では無理 高性能の望遠鏡で見えるかどうかは知らんけど

5 奥の店 揉み手をしても 閑古鳥 声聞く時ぞ 空きは悲しき  
奥山に もみぢ踏み分け 鳴く鹿の 声聞く時ぞ 秋は悲しき  
立地が悪ければ少々サービスを良くしても客はこない

6 傘さして 渡れる道に 降る雨の 光るを見れば 夜ぞふけにける  
かささぎの 渡せる橋に 置く霜の 白きを見れば 夜ぞふけにける  
ウム 狂歌というより短歌になってしまった

7 甘い罠 振込みさせて カス送る 見かけの品で 出でし詐欺かも  
天の原ふりさけ見れば春日なる三笠の山に出でし月かも  
メルカリも良いけれど 詐欺にかからないよう十分注意を

8 わが庵は 都のみなみ リスぞ住む 世を鎌倉と 人はいふなり  
わが庵は 都のたつみ しかぞ住む 世をうち山と 人はいふなり  
鎌倉ではリスは可愛い小動物ではなくアライグマ、ハクビシンと並ぶ害獣

9 鼻の穴 くすぐりされる いたづらに わがみくしゃみを 眺められると  
花の色は移りにけりないたづらにわが身世にふるながめせし間に  
こういう古典的いたづらは、はやってない